

平成 30 年度第1回和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会について

1. 開催日時 平成 30 年 8 月 9 日 (木) 10 時 15 分～14 時 30 分
2. 場 所 和歌山県立医科大学 管理棟 2 階 C 会議室
和歌山県立医科大学附属病院 5 階西 緩和ケア病棟
3. 出席委員 委員長 山口 悦子 (大阪市立大学)
副委員長 中川 利彦 (パークアベニュー法律事務所)
委員 石井 浩子 (NPO 法人いきいき和歌山がんサポート)
4. 院内出席者 病院長・管理者 山上 裕機
医療安全管理責任者・副院長 中尾 直之
医療安全推進部 部長 水本 一弘
医薬品安全管理責任者・薬剤部長 岩城 久弥
医療機器安全管理責任者・臨床工学センター長 重松 隆
臨床工学センター副主査 稲垣 伸光
事務局次長 (病院担当) 松尾 孝志
薬剤部 副部長 吉田 薫
薬剤部 主査 (ヒアリング対応) 西村 知恭
1 1 階西病棟 副看護師長 (ヒアリング対応) 向 友代
5 階西病棟 看護師長 (緩和ケア病棟現場対応) 木村 和美
5 階西病棟 副看護師長 (緩和ケア病棟現場対応) 有本 幸恵
5. 議事次第 (1) 薬剤管理について
(2) 投薬 (与薬) 事故防止のための工夫、システムについて
(3) 緩和ケア病棟について
6. 監査結果
(1) 薬剤管理について
 - ・ 医薬品の管理のマニュアルについて、毎年きちんと定期的に見直されている点はすばらしい。
 - ・ 定数配置薬についての基準を設け、適正な配置を行い、病院全体の在庫管理につなげることで、より安全な医薬品の管理に努めていただきたい。
 - ・ 薬品の破損、紛失及び盗難が生じた際の区別が付けられていないため、ある程度正確に把握できるシステムの構築を準備いただきたい。

(2) 投薬（与薬）事故防止のための工夫、システムについて

- ・病院内でのヒューマンエラーは避けられないので、どうやって少なくして、起きた時にどう対応するかというのが重要である。
- ・事故が起きた時に医療安全管理部門に報告が上がり、改善策が考えられている点については安心した。
- ・持参薬管理について、現在進められている改善策を進めていただきたい。
- ・医療機関にとっては必然的な合併症であっても、患者にとっては心配なことであるので、患者の不安を汲み上げるシステムが大事であり、患者との意識のギャップをなくすように対応いただきたい。

(3) 緩和ケア病棟について

- ・一般市民にとって、緩和ケア病棟や医療用麻薬は誤解されやすいと思っているが、ここでは緩和ケア外来での説明や入院時の問診で患者及び家族とコミュニケーションを取られていることが分かった。
- ・がんの領域の臨床心理士がいれば、薬剤師や栄養士、ソーシャルワーカー、ボランティアとともに、チーム医療ができると思うので、臨床心理士も参加してもらえたらと思う。

(総括)

- ・3つのテーマを通して、在庫や業務の無駄を省きながら、安全を目指すこと、また、患者と職員間の気持ちや理解のギャップをどのように埋めるかということが改善の対象ではないかと思う。
- ・持ち前の丁寧さ、フットワークそしてホスピタリティで、迅速な問題認識につなげ、よりいっそう改善に努めていただきたい。